

<今回>200回目 2016年12月2(金)16時~19時 1503号室  
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」66P 紹熙本の優秀性 より

<前回>199回目(16-11-21) 出席者11名

- 資料 16-11-21-1) 前回のまとめ(清水)  
-2) 古事記偽書説(清水)  
-3) 古事記への疑問(清水)

#### A 報告

今回も電源工事のため暖房効かなく寒くかった。

津多家で会食9名、16062円(1500・2名+1700円・3名+2000・4) +338円

B 資料 -2) 平成23年に大和岩雄氏の同名の本を基にまとめてみたもの。-3) 引き続きの疑問。

C 読書「邪馬壹国の論理」P55三国志跋文の誤読について

1) 校史随筆は百衲本二四史の刊行と共に中華民国27年(1938)に発刊された。24史末尾の各跋文(張元濟)と一対のもので両者の趣旨に矛盾はない。

1原形の問題 古文は韓退之の唱導した六朝以前の文体に当たる。紹熙本は多く古文を存している。それを原形といたつたので、榎氏の誤読である。

②「紹熙本」の名称問題 百衲本三国志の表紙に金文字で「宋紹熙刊本」、裏表紙裏にも日本帝室図書寮蔵宋紹熙刊本とある。諱の問題は不確定要素があり、1代のずれは生じうる。光宗(紹熙)と寧宗と諱からは年代を定めがたい。百衲本24史版本述要には三国志宋紹熙刊本これ寧宗の刊本為りとあり、榎氏のさわざたてである。

③南北宋本削除問題 榎氏は南北宋本、是の本(紹熙本)に及ばずの語をカットしている。榎氏に不利だからである。

④民国19年百衲本全体に冠した序文により優れた本があれば、旧本を捨てるとして、紹熙本を較勝本とみなしている  
2) 裴松之の註の問題 陳寿の自筆本の三国志原本(三世紀)を追求した、五世紀の裴松之の註の入った本ではない。現版本からまぎらわしい壺と臺の錯乱があれば、写筆の時に惑わされた筆写者がいるかどうかの判定に用いた。漢書と魏書の間から臺と壺を間違えた例を山陽公載記、後漢書の間からもってきて二つをつなげ、だから三国志本文もという榎氏の論法は甘さの限度をこえている。榎氏は自分で仮構した観念を押しつけ不十分だと呼号したのは自らの方法上の甘さ、自己限定の欠如、方法論上の甘さの露呈なのだ。

二 中国版本の手法について 宮内庁書寮部本と百衲本の内実の異同問題 何回も書寮部に足を運んだ

①「筆入れ」問題 齊を齊王と王の文字をした刷入れているのは前後から正しい。見合い写真の修正みたいなもの。

② カット問題 欄外の多くの筆跡、多くの印など原姿に復元主義の伝統からきたもの。日本の後代の印など消去。

③ 牒と破紙問題 中国側の復元主義の徹底。破損していたものを補強し、現代のあらゆる写真技術が堂々と駆使されている。忠実なリプリントとは榎氏の造語である。張元濟が写真を撮ったからといって忠実なリプリントではない。

④ 紹熙本以前への遡源問題 句麗を東沃沮に訂正、復元より復源の伝統。濊伝(百衲本)と濊南伝(書寮部本)先頭の二文字を表題にする習慣と異なる。韓伝も韓在伝かもしれない。原文改定の非を張元濟に言いたい。

⑤ 中国版刻史の問題 近代リアリズム(汚れも微証も入手した時点の物を残す)以前の伝統なのは残念。しかし張元濟の評価は手元の紹興本を捨て紹熙本を取ったと云う処断を榎氏は知りながら問題をすりかえて論難の具に使うのは曲筆である。

次回日程 2016-12-26(月) 15時~18時 1503号室  
2017-1-13(月) 16時~18時 1503号室  
-30(月) 15時~18時 1503号室